

いざという時現場へ駆けつける

# 災害救助犬



災害時、迅速さが求められる現場で、被災者の捜索活動に貢献している「救助犬」をご存じでしょうか。多久市には県内でも数少ない救助犬・モカ号が、いざという時に備え、日頃から訓練を行っています。



災害救助犬とは

突然の災害時、崩壊した家屋や土砂の中から、また山岳などで行方不明になった人を捜索する「救助犬」は、優れた嗅覚で人の匂いを探し当てます。

現在、県内には災害救助犬が2頭。そのうちの1頭が、河野忠敏さん(北多久町)の愛犬シエパードのモカ号です。

元々、犬好きの河野さんは、警察犬・災害救助犬として愛犬と一緒にに人の役に立ちたいと志し、2005年から先代のアギー号と警察犬・災害救助犬とその指導士(ハンドラー)を目指し訓練を始動。2009年に厳しい認定試験に合格し、アギー号と2014年まで活躍しました。

2代目のモカ号と河野さんは2011年からトレーニンングに取り組み、認定試験に2013年、見事に合格し、これまでに多くの行方不明者の捜索に協力してきました。

河野さんは「訓練といっても、

日頃は当たり前前の躰をし、週末などに匂いから人を捜す練習や「かくれんぼ」のような訓練をしています。犬にとっては遊びのような感覚でしょうね。熊本にある救助犬の訓練所で専門的な訓練を行うこともあります。子犬からの躰と犬と人との信頼関係が大事ですね。一緒に楽しみながら私たちは災害ボランティアとして少しでも役に立てればと活動しています」と「相棒」との日常を話されました。



◀ 遭難者を探す訓練の様子

▼ 厳しい試験を突破して認定されます。

